

2017年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2017年度は、社会福祉学分野のさらなる学問的水準の向上を図るため、学術研究集会の開催や学会機関誌の刊行などの活動を行った。また、2016年度に引き続き研究倫理指針の見直しを行い、新たに研究倫理規程を作成するとともに、大会のあり方や若手・女性研究者への支援のあり方について検討を重ねた一年であった。具体的な施策案は次年度以降への引継ぎ事項としている。さらに、日韓間の学術交流に新たに中国を交えて、日中韓三カ国の学術交流の覚書を締結した。東アジア圏での国際的な学術交流がより一層深まることが期待される。

I. 学術研究集会、講演会等の開催

1. 全国大会

1) 第65回春季大会報告

「2017年度定時社員総会」開催にあわせて、2017年5月28日（日）に明治学院大学白金キャンパスで開催した。「教育と福祉における協働の論点を探る」をテーマにシンポジウムを行い、約270名が参加した。

2) 第65回秋季大会報告

2017年10月21日（土）・22日（日）に首都大学東京南大沢キャンパスで『「包摂型社会」への提言一人びとの生の剥奪と再生―』をテーマにして開催し、約800名が参加した。大会ホームページで『報告要旨集』および『大会プログラム』を公開するやり方については、会員の理解も深まり、かなり定着したように思われる。また今大会においても、事前に申請した大学院生等の学生会員に対して参加費を免除することとし、81名からの大会参加費免除申請があった。

3) 第66回全国大会に向けての準備

第66回春季大会は、2018年5月27日（日）に東京通信大学新宿駅前キャンパス（コクーンタワー）で「外国人への支援～多文化共生社会とソーシャルワーク～」をテーマに開催する。また、シンポジウムとあわせて、2017年度学術賞受賞者による講演を予定している。

第66回秋季大会は、2018年9月8日（土）・9日（日）に金城学院大学で「21世紀の社会福祉と『運動性』」をテーマに開催予定である。

4) 第67回秋季大会について

2019年度第67回秋季大会は、大分大学（大分県）で開催することが決定した。

2. 日本社会福祉学会フォーラム

2017年度は、12月9日（土）にアクロス福岡（福岡県）で、学会の九州地域ブロックとの共催で「サービスの質の向上と福祉経営―市場化における社会福祉の独自性を問う―」をテーマにしてシンポジウムを行った。参加者は約100名であった。

2018年度開催の第15回フォーラムは北海道地域ブロックとの共催で行うことを予定している。

3. 地域ブロック研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

Ⅱ. 学会機関誌『社会福祉学』その他刊行物の刊行

1. 学会機関誌『社会福祉学』刊行

1) 機関誌編集委員会活動

①機関誌編集委員会構成

2017年度の機関誌編集委員会は以下の17名で構成した（敬称略）。

委員長：坪 洋一（理事）、副委員長：今井小の実（理事）

委員：池本美和子、石川時子、沖倉智美、奥西栄介、加藤博史、川島ゆり子、倉持史朗、小泉広子、小林 理、柴田謙治、三島亜紀子（英文誌担当）、村田文世、室田信一、山井理恵、山本真実

②機関誌編集委員会開催

2017年度には編集委員会を7月9日（日）、10月1日（日）、1月7日（日）、3月23日（金）の計4回開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。

③拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を第65回秋季大会にあわせて10月21日（土）12:00～13:00に首都大学東京南大沢キャンパスにて開催した。

④機関誌のテキストデータの提供

視覚障害のある会員の要請に応じて、『社会福祉学』のテキストデータの提供を行った。

⑤CiNii から J-STAGE へのデータ移行

CiNii から J-STAGE にデータを移行した。2018年4月以降に順次公開予定である。

2) 機関誌『社会福祉学』刊行

巻／号	58-1	58-2	58-3	58-4
発行月	2017年5月	2017年8月	2017年11月	2018年2月
論文	9	7	4	7
実践報告			1	
調査報告	3			
資料解題				
書評	2	3	4	1
文献紹介	3	1	3	3
学会回顧・展望			8	
全国大会等				6
総ページ数	190	124	220	146
印刷部数	5,100	5,100	5,100	5,000

2017年度には和文誌を4回(58-1/58-2/58-3/58-4)発行した。なお英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』については、論文4本の投稿があったが、いずれも掲載不可となった。

2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 2017年度学会賞の審査委員会は、古川孝順委員長、太田貞司委員、大友昌子委員、黒田研二委員、白澤政和委員、三本松政之委員と学会賞審査委員会担当の大島巖理事が構成し、2016年1月から12月までに刊行された図書及び論文を審査した。

2) 審査対象研究業績

2016年1月から12月までの刊行された研究業績の内、会員からの推薦9点、国立国会図書館検索システムから抽出した3,357点、「アマゾンリサーチ検索」から抽出した8点より、会員業績の38点を審査対象とした。

論文部門は、自薦された2本に、2016年に本学会機関誌(第56巻4号、第57巻1~3号)に掲載された論文29本を加えた31本を審査対象論文とした。

3) 審査の経緯

第1回審査委員会(2017年3月19日開催)

審査対象となる研究業績を絞り込み、38点の単著、31本の論文を第1次査読対象とした。

第2回審査委員会(2017年5月28日開催)

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、第2次審査対象として、7点の単著、3本の論文を選考し、委員全員で査読することとした。

第3回審査委員会(2017年7月16日開催)

第2次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、学術賞(1名)、奨励賞(1名)の授賞者を決定した。

○学術賞(単著部門)

岩田 正美『社会福祉のトポス—社会福祉の新たな解釈を求めて』

(有斐閣、2016年1月15日刊)

○奨励賞(論文部門)

鈴木 浩之『子ども虐待に伴う不本意な一時保護を経験した保護者の「折り合い」のプロセスと構造—子ども虐待ソーシャルワークにおける「協働」関係の構築—』

(『社会福祉学』第57巻2号掲載、2016年8月31日刊)

4) 学会賞授賞式

2017年10月21日、第65回日本社会福祉学会秋季大会(於:首都大学東京)において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告の後に、黒木保博副会長より岩田正美氏に学術賞が、鈴木浩之氏に奨励賞が授与された。

2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支援した。各地域ブロックの下の「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

IV. 関連学術団体との連絡および協力

1. 日本社会福祉系学会連合

会長として本学会の黒木保博副会長（任期：2016年5月～2018年5月）を、事務局長として湯澤直美理事（任期：2017年3月～2018年5月）を、運営委員として小櫃俊介会員と後藤広史会員を派遣している（任期：2016年5月～2018年5月）。また、本学会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

2017年12月17日（日）に上智大学四谷キャンパスにて「インクルーシブな地域コミュニティをいかに構築するかー実践の成果と課題」というテーマでシンポジウムを開催した。このシンポジウムについては報告書を作成し、学会連合ホームページに掲載予定である。また、災害福祉研究の成果を蓄積し、災害福祉学の構築に寄与する観点から、学会連合ホームページ内に「災害福祉アーカイブ」がつけられた。本学会としてもこの取り組みを支援するため、学会ニュース等において情報収集のための広報活動に協力した。

2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

V. 国際的な研究協力の推進

1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

1) 韓国社会福祉学会への派遣

2017年4月21日（金）・22日（土）に韓国麗水（ヨス）市 The Ocean Resort にて開催された韓国社会福祉学会春季学術大会に、自由研究発表者11名（7チーム）を派遣した。

また、2017年10月27日（金）・28日（土）に韓国ソウル大学にて開催された韓国社会福祉学会秋季学術大会に、シンポジストとして岡田忠克理事と長谷川俊雄会員を派遣した。学会役員として岩崎晋也会長、黒木保博副会長・国際学術交流促進委員長、金圓景国際学術交流促進委員が出席した。

2) 中国社会福祉研究専門委員会第9回年次大会への派遣

2017年11月16日（木）～20日（月）に中国厦門（アモイ）市 厦門大学にて開催された中国社会福祉研究専門委員会第9回年次大会に、学会公式訪問者として黒木保博副会長、包敏国際学術交流促進委員を派遣した。

3) 2017年度日中韓会長会議への参加

2017年10月27日（金）の韓国ソウル大学 Hoam Faculty House にて開催された2017年度第1回日中韓会長会議に、岩崎晋也会長、黒木保博副会長・国際学術交流促進委員長、岡田忠克理事・国際学術交流促進委員会委員、金圓景国際学術交流促進委員が出席した。

2017年11月17日（金）の中国厦門大学項恩楼にて開催された2017年度第2回日中韓会長会議に黒木保博副会長・国際学術交流促進委員長、包敏国際学術交流促進委員が出席した。

2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

2017年10月21日（土）に首都大学東京南大沢キャンパスにて開催された第65回秋季大会において、留学生と国際比較研究のためのワークショップを実施した。

VI. 学会の組織・運営

1. 会員の動向

1) 入会について

2017年度の入会許可者数は、181名である。

2) 会員の動向

2017年度入会者が181名、2017年度退会者が286名で、2018年4月1日現在の会員数は4,635名である。

3) 名誉会員数

2018年5月1日現在の名誉会員は下記の14名である（50音順、敬称略）。

秋山 智久	阿部 志郎	井岡 勉	右田 紀久恵	太田 義弘	岡本 栄一
岡本 民夫	忍 博次	柏木 昭	児島 美都子	杉村 宏	田端 光美
中垣 昌美	古川 孝順				

2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第29条の規定に基づいて、「2017年度定時社員総会」を第65回春季大会に併せて開催した。出席代議員は、139名（委任状95名含む）であった。審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2017年5月28日（日） 10：00～11：15

開催会場：明治学院大学 白金キャンパス 本館3階1301教室

審議事項

1. 2016年度事業報告・決算報告・監査報告
2. 諸会費規程の制定及び正会員諸会費規程の廃止について
3. 2017年度事業計画・当初予算
4. 理事の選任について
5. 名誉会員の推挙について
6. その他

報告

1. 新役員体制について
2. 学会賞事業要綱の一部改正について
3. 大会のあり方検討委員会からの中間報告
4. 学会資料のアーカイブ化推進委員会の発足について
5. 若手・女性研究者に対する支援検討委員会の発足について
6. その他

3. 理事会

2017年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために5回開催した。役員構成は、別表一①の通りであり、審議事項は以下の通りである。(報告事項は除く)

第1回理事会(2017年5月27日開催)

- 審議事項
1. 入会審査
 2. 2017年度予算案の変更について
 3. 2016年度事業報告
 4. 2016年度決算報告
 5. 監査報告
 6. 役員新体制および委員変更について
 7. 研究倫理に関する各新規程(案)について
 8. 学会ホームページのあり方について
 9. その他

第2回理事会(2017年7月29日開催)

- 審議事項
1. 入会審査
 2. 学会賞審査委員の任期について、および再任の承認
 3. 選挙管理委員会について、および委員の選出
 4. 広報委員会の委員委嘱について
 5. 「一般社団法人日本社会福祉学会旅費規程」の改定について
 6. 「一般社団法人日本社会福祉学会委員会規程」の改定について
 7. 「一般社団法人日本社会福祉学会アーカイブ化推進委員会規程」の制定について
 8. J-Stageへの機関誌『社会福祉学』の登載およびID/PWについて
 9. 研究倫理に関する各新規程(案)について
 10. 若手・女性研究者に対する支援検討委員会のアンケート調査について
 11. その他

第3回理事会(2017年10月20日開催)

- 審議事項
1. 入会審査
 2. 研究倫理に関する各新規程(案)について
 3. 日中韓における研究交流の推進に関する覚書について
 4. 学会賞審査委員への委嘱について
 5. 2018年度業務委託契約について
 6. 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会への加盟について
 7. 大会のあり方アンケート中間報告について
 8. 編集委員会からの議題について
 9. Aging & Society 第8回学際学会への後援について
 10. その他

第4回理事会(2017年12月16日開催)

- 審議事項
1. 入会審査
 2. 第6期役員候補者選挙管理委員への委嘱について

3. 第 66 回春季大会について
4. 第 67 回秋季大会について
5. その他

第 5 回理事会 (2018 年 3 月 11 日開催)

- 審議事項
1. 入会審査
 2. 2018 年度事業計画案および予算案について
 3. 2018 年度定時社員総会の議題について
 4. 全国大会運営委員の委嘱および解嘱について
 5. 韓国社会福祉学会自由研究発表者の選定について
 6. 学会賞審査委員会における奨励賞 (論文部門) について
 7. 研究倫理指針の見直しに関するパブリックコメントの内容と対応について
 8. 研究倫理規程に対する違反行為への調査および処分に関する規程、研究倫理委員会規程について
 9. その他

4. 運営委員会

事業計画を踏まえ事業状況を確認すると共に、各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、各回の理事会に先立ち、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

5. 監査

定款第 20 条に基づいて、2017 年度上半期の監査を 12 月 4 日に実施し、12 月 16 日開催の理事会で業務状況および予算執行状況について報告を行った。また、2017 年度全体の監査を 2018 年 5 月 1 日に実施し、理事会および定時社員総会にて、法人の業務および財産状況の報告を行った。

6. 各種委員会の活動 (委員会構成は別表一②)

1) 大会運営委員会

1. 2017 年度において推進した事業

(1) 第 65 回 (2017 年度) 春季大会の開催

テーマ：教育と福祉における協働の論点を探る

月 日：2017 年 5 月 28 日 (日)

会 場：明治学院大学白金キャンパス

参加者：約 270 人

(2) 第 65 回 (2017 年度) 秋季大会の開催

テーマ：「包摂型社会」への提言一人びとの生の剥奪と再生—

月 日：2017 年 10 月 21 日 (土)・22 日 (日)

会 場：首都大学東京南大沢キャンパス

参加者：約 800 人

(3) 第 14 回日本社会福祉学会フォーラムの開催

テーマ：サービスの質の向上と福祉経営一市場化における社会福祉の独自性を問うー

月 日：2017年12月9日（土）

会 場：アクロス福岡

参加者：約100人

(4) その他

委員会の開催（5回）

2. 現在、検討している事項

(1) 第66回（2018年度）春季大会の内容最終調整

テーマ：外国人への支援～多文化共生社会とソーシャルワーク～

月 日：2018年5月27日（日）

会 場：東京通信大学新宿駅前キャンパス（コクーンタワー）

(2) 第66回（2018年度）秋季大会の準備

テーマ：21世紀の社会福祉と「運動性」

月 日：2018年9月8日（土）・9日（日）

会 場：金城学院大学

(3) 第15回学会フォーラムの内容検討

月 日：2018年秋頃開催予定

会 場：北海道（北海道地域ブロックとの共催）

(4) 第67回（2019年度）秋季大会の準備

月 日：2019年9月21日（土）・22日（日）

会 場：大分大学

3. その他（課題等）

(1) 大会のあり方検討委員会の報告にもとづき、第66回大会以降の実施に向けての検討

(2) 学会フォーラムの開催ブロックの確認

2018年度 第15回 北海道地域ブロック

2019年度 第16回 東北地域ブロック

2020年度 第17回 中部地域ブロック

2021年度 第18回 関西地域ブロック

※原則、春季大会を関東で開催するため学会フォーラムは関東地域ブロック以外での開催を予定している。

2) 学会賞審査委員会

1. 2017年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

業績審査は2016年1月から12月までに刊行された図書及び論文を審査した。

①審査対象研究業績

2016年1月から12月までの刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書（9点）以外

に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する 3,357 点を選び、かつそれらが日本社会福祉学会員の対象業績であるかどうかをチェックした 37 点を抽出した。また、アマゾンリサーチを活用し、「社会福祉 (2016 年刊行)」で検索した結果、上記検索図書以外に会員業績 8 点を抽出することができた。結果として、第 1 次選考委員会に提案された審査対象図書は合計 54 点になった。

しかし、上記の図書にはルポルタージュや翻訳書、随想、テキストなども含まれており、目次や図書紹介、概要等を検討した結果、最終的に 38 点を第 1 次審査対象著書とすることを決定した。

論文部門は、推薦のあった 2 本と、それ以外に 2016 年に本学会機関誌 (第 56 巻 4 号、第 57 巻 1~3 号) に掲載された論文 29 本の合計 31 本を対象論文として審査することにした。

②審査の経緯

◆第 1 回審査委員会 (2017 年 3 月 19 日開催)

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の 5 項目とし、各項目の 5 点満点で評価することを確認した。

第 1 次審査を行う著書 38 点について、1 点につき 2 人の審査委員を選び、上記の 5 項目に焦点を当て審査することにした。最終的には審査委員ごとに 9 冊から 11 冊の審査対象図書が割り当てられた。また、自由記述でコメントを付することにした。

論文部門についても著書と同様に審査を行うこととし、審査委員ごとに 6 本から 11 本の論文を担当することになった。

◆第 2 回審査委員会 (2017 年 5 月 28 日)

第 1 次審査対象図書の査読結果を報告し、合計 50 点満点のうち、40 点以上の図書を第 2 次審査対象著書として選定した。40 点未満の図書についても 1 冊ずつ評価を行った。

論文は 3 本の論文を第 2 次審査対象とした。

◆第 3 回審査委員会 (2017 年 7 月 16 日)

第 2 次審査対象著書 7 点、対象論文 3 本を審査委員全員で評定し、各業績に対してコメントを記載したものを共有した。いずれも評価は高いものであったが、総括的審査の結果、全会一致で以下の授賞候補作が決定し、2017 年 7 月 29 日開催の第 2 回理事会にて授賞候補作の理事会承認を得た。

○学術賞 (単著部門)

岩田 正美 会員『社会福祉のトポス——社会福祉の新たな解釈を求めて』(有斐閣)

○奨励賞 (論文部門)

鈴木 浩之 会員「子ども虐待に伴う不本意な一時保護を経験した保護者の「折り合い」のプロセスと構造 —子ども虐待ソーシャルワークにおける「協働」関係の構築—」 社会福祉学 57(2)

(2) 学会賞授賞式について

2017 年 10 月 21 日、第 65 回日本社会福祉学会秋季大会 (於：首都大学東京南大沢キャン

パス)において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告がなされた後に、黒木保博副会長から学術賞ならびに奨励賞を2名の会員に対して授与した。

(3) 次期学会賞審査委員について

2018年度からの学会賞審査委員(任期2年)は、黒田研二委員(関西大学)、白澤政和委員(桜美林大学)、三本松政之委員(立教大学)、大嶋巖担当理事(日本社会事業大学/2018年度定時社員総会まで)が重任し、上野谷加代子委員(同志社大学)、小林良二委員(東京都立大学名誉教授)、永岡正己委員(日本福祉大学)が新たに委員として委嘱された。

2. 現在、検討している事項

学会賞事業要綱の改正(2017年5月)に伴って奨励賞(論文部門)では共著論文も審査対象となった。2018年度の学会賞審査では共著者は全て会員であることとして審査を行い、次期委員会にて共著者の同意手続きなどの審査手続きについて検討することとなった。

3) 研究倫理委員会

1. 2017年度において推進した事業

(1) 研究倫理案件への対応

①研究倫理委員会構成

委員長：岡部卓(理事) 副委員長：久保美紀(理事)

委員：杉山博昭(理事)、平野方紹(会員)、児島亜紀子(会員)

②研究倫理案件発生における委員会対応

◆2017年度は研究倫理案件が発生しなかったため委員会召集は行っていない。

◆第65回秋季大会(於：首都大学東京)における学会報告についての相談・協議を行った。

(2) 問題への対応を通して研究倫理指針および研究倫理委員会規程の精査・検討

2. その他(課題等)

研究倫理に関する課題については別途委員会を設置し検討した。

4) 国際学術交流促進委員会

1. 2017年度において推進した事業

1) 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

(1) 留学生ワークショップの実施

開催日時：2017年10月21日(土)12:00~14:00

開催場所：首都大学東京南大沢キャンパス6号館4階401教室

参加者数：約40名

第1部 パネルディスカッション

テーマ：「国際比較研究を促進するための研究環境の課題と展望」

パネラー：白澤政和(桜美林大学)

李 恩心(昭和女子大学)

姜 セギョン(東洋大学大学院生)

第2部 参加者によるグループ討議

第3部 グループ討議の内容の各グループ代表者による発表

全体司会 国際学術交流促進委員会委員 岡田忠克 (関西大学)

(2) 地域部会での留学生のための事業推進協力

関西地域ブロック：若手研究者のためのワークショップ (留学生ワークショップ)

開催日：2018年1月20日(土)

開催場所：同志社大学新町キャンパス

2) 東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

(1) 韓国社会福祉学会・中国社会学会社会福祉専門研究委員会との学術交流・推進事業

①第1回日中韓会長会議

開催日時：2017年10月27日(金) 8:00~9:30

開催場所：ソウル大学 Hoam Faculty House

協議事項：学術交流「覚書」署名、覚書交換

今後の国際シンポジウム・テーマ等について、等

出席者(日本)：岩崎晋也会長、黒木保博副会長・国際学術交流促進委員会委員長、
岡田忠克理事・国際学術交流促進委員会委員、金圓景委員

出席者(韓国)：Lee Bong Joo 会長(ソウル大学)、アジア国際委員会委員長 Lee
Myoung Hyum (慶北大学)、Choi Won Kyu 次期会長(全北大学)

出席者(中国)：彭華民(副理事長)、高春蘭

②第2回日中韓会長会議

開催日時：2017年11月17日(金) 14:00~15:00

開催場所：厦門大学項恩楼10楼1001会議室

協議事項：来年度の国際シンポジウム・テーマについて

覚書について

個人自由研究発表について、等

出席者(日本)：黒木保博副会長・国際学術交流促進委員会委員長、包敏委員

出席者(韓国)：Lee Bong Joo 会長(ソウル大学)、アジア国際委員会委員長 Lee
Myoung Hyum (慶北大学)、Choi Won Kyu 次期会長(全北大学)

出席者(中国)：彭華民(理事長)、陳樹強(中国青年政治学院院長)、顧京輝(復旦大
学)、錢寧(西華大学)、潘屹(中国社会科学院社会学研究所)、
高和榮(厦門大学)

③2017年度韓国社会福祉学会春季学術大会への個人自由研究発表者審査

2017年11月20日募集、12月20日締め切り、1月審査結果発表

④韓国社会福祉学会春季学術大会への派遣：個人自由研究発表者として参加

開催月日：2017年4月21日(金)、22日(土)

開催場所：韓国麗水市 The Ocean Resort

派遣者：7チーム11名(①小倉常明、劉光鐘、②滝川賢司、③上原紀美子、田中将太、
④古川隆司、⑤金慧英、石川久展、⑥中川千恵美、中島尚美、⑦魁生由美子)

⑤韓国社会福祉学会からの個人自由研究発表者の受け入れ

- ・金守熙、文松愛、鄭鐘和（三育大学校大学院）

「韓国における発達障がい者雇用開拓人物史研究—福祉の同情から労働権利への道を開拓したJ氏の生涯史を中心に—」

- ・ミン キチュエ（韓国交通大学）

「北朝鮮の社会福祉デリバリーシステムに関する研究—食糧供給制を中心に—」

⑥中国社会学会社会福祉研究専門委員会第8回年次大会招聘

開催月日：2017年11月16日（木）～20日（月）

開催場所：中国厦門市 厦門大学

招聘者：黒木保博副会長（記念講演）、包敏国際学术交流促進委員会委員

※なお、中国側の今後の日中間の連絡窓口者：楊 程（上海大学社会学院）

中韓間の連絡窓口者：高春蘭（長春工業大学）

3) 国際学術シンポジウム開催

「日中韓国際シンポジウム」

開催日程：2017年10月27日（金）・28日（土）

開催場所：ソウル大学校 101棟210号

テーマ：「未来世代に対する支援の課題」

<セッション1（27日16:30～18:30）>

発表者：

韓国 アン・ホンスン（新羅大学校）

「未来世代の福祉増進のための社会福祉政策パラダイム転換の必要性」

日本 岡田忠克（関西大学）

「日本における生活保護世帯の高校支援—実態調査を中心に—」

中国 彭華民（南京大学）

「中国における苦しむ児童への福祉提供の多元化—適切な普遍的児童福祉制度に向けて—」

司会：イ・ミョンヒョン（慶北大学校）

討論者：イ・サンイル（ソウル市立大学校）

<セッション2（28日10:00～12:00）>

発表者：

韓国 イ・ギョンウン（慶北大学校）

「青少年のスマートフォン依存に関する縦断的研究」

日本 長谷川俊雄（白梅学園大学）

「ひきこもり問題とソーシャルワークの課題—実践・政策・研究の展開をとおして—」

中国 韓中迪（復旦大学）

「Aging Together: Elderly Parents Caring for Adult Children with Intellectual Disability or Mental Illness in Shanghai」

司会：イ・ミョンヒョン（慶北大学校）

討論者：イ・ウォンイク（釜山大学校）

4) 国際学術交流促進委員会開催

第1回 7月14日(金) 17:00~19:00 (於:京都市 同志社大学)

第2回 12月2日(土) 17:00~19:00 (於:京都市 同志社大学)

2. 現在、検討している事項

1) 留学生の研究活動に対する学会としての取り組みについて(情報収集と提供)

第66回秋季大会での留学生・国際比較研究ワークショップ内容・実施案について

2) 日中韓国際学術シンポジウム開催実施案について ※韓国・中国への案内連絡調整

3. その他(課題等)

アジア諸国、欧米諸国との学術交流のあり方の検討

5) 広報委員会

1. 2017年度において推進した事業

(1) 広報委員会の開催

第1回広報委員会

開催日時:2017年5月28日(日)14:00~16:00

開催場所:明治学院大学白金キャンパス

協議内容:①学会HPモバイル化について、②英文HPの充実について、③学会ニュース75号企画案について、④広報委員補充について、⑤その他

第2回広報委員会

開催日時:2017年6月22日(木)14:00~16:00

開催場所:国際文献社

協議内容:①学会HPモバイル化について、②英文HPの充実について、③学会ニュース77号企画について、④HPリスクマネジメント、⑤組織図の掲載について

第3回広報委員会

開催日時:2017年10月22日(日)13:00~14:00

開催場所:首都大学東京南大沢キャンパス

協議内容:①Googleアナリティクスの導入について、②HPリスク管理について、③対外的広報の強化について、④外国語(英文)HP進捗状況、⑤HP広報のあり方について、⑥次回学会ニュースの内容について

第4回広報委員会

開催日時:2017年11月27日(月)16:30~18:00

開催場所:首都大学東京南大沢キャンパス

協議内容:①Googleアナリティクス分析結果について、②対外的広報の強化について、③トップページの構成変更を検討、④次回学会ニュースの内容について

(2) 学会ホームページの充実化とリスク管理の検討

ホームページのモバイル化を導入するにあたり分析を行い、導入の妥当性を検証した。学会

大会時のホームページ閲覧のアクセシビリティ向上を図るために、第 66 回秋季大会から導入する。リスク管理と対応策を検討した。

(3) ホームページの国際的な対応

学会ホームページの英文のサイトの全面的リニューアルを行った。

(4) 学会ホームページの運営・管理

新着情報の掲載と情報の更新を行った。

(5) 「広報委員会だより」の発行 ※年 5 回の一斉送信

学会の最新情報および関連団体の動向などを中心に配信し、事務局業務関連連絡は、「事務局からのお知らせ」として学会事務局が随時送信した。

第 34 号 (2017 年 5 月 1 日)、第 35 号 (2017 年 7 月 26 日)、第 36 号 (2017 年 10 月 17 日)、第 37 号 (2017 年 12 月 5 日)、第 38 号 (2018 年 2 月 19 日)

(6) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年 3 回掲載

最新の情報や関係団体の動向等、タイムリーな情報提供を行った。シリーズ「社会の潮流を読む」に関しては、会員が興味を持てるテーマやトピックを毎回検討し、執筆者に原稿を依頼した。

第 75 号 (2017 年 6 月 30 日)、第 76 号 (2017 年 10 月 11 日)、第 77 号 (2018 年 2 月 6 日)

2. 現在、検討している事項

- ・対外的広報の強化をする。会員以外に対しての広報を行うことは、本学会の会員獲得にもつながる。
- ・ホームページのトップページの変更によりアクセシビリティを充実させる。
- ・ハッキングなどに備えたリスク管理を強化するための対応策を検討する。
- ・国際的に対応できるようにホームページを充実させる。中国や韓国の研究者に必要な情報を掲載できるように、国際学術交流促進委員会と連携を図り、対応する。

6) 機関誌編集委員会

1. 2017 年度において推進した事業

(1) 学会機関誌『社会福祉学』刊行

①機関誌編集委員会活動

i. 機関誌編集委員会構成

2017 年度には以下の 17 名で機関誌編集委員会を構成し、業務にあたった。

委員長：坪 洋一 (理事)、副委員長：今井小の実 (理事)

委員：池本美和子、石川時子、沖倉智美、奥西栄介、加藤博史、川島ゆり子、倉持史朗、小泉広子、小林 理、柴田謙治、三島亜紀子 (英文誌担当)、村田文世、室田信一、山井理恵、山本真実

ii. 機関誌編集委員会開催

2017年度には編集委員会を計4回開催した。

開催日：7月9日（日）、10月1日（日）、1月7日（日）、3月23日（金）

また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。

iii. 機関誌拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を、第65回秋季大会にあわせて開催した。

開催日時：10月21日（土）12：00～13：00

開催会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 6号館 101 教室

出席者数：査読委員 22名 編集委員 10名 編集事務局 2名 計 34名

iv. CiNii から J-STAGE にデータを移行した。2018年4月以降、順次公開予定。

②機関誌「社会福祉学」刊行

2017年度には和文誌を4回（58-1／58-2／58-3／58-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」については、論文4本の投稿があったが、いずれも掲載不可となった。

（2）地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックによる機関誌の刊行については、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

2. 現在、検討している事項

①二重投稿基準の公表

既発表の論文や著書からの「サラミ投稿」をはじめ、二重投稿基準がない中で対応に苦慮する投稿が多発している。すでにガイドライン（内規）はおおむね完成したが、引き続き歴史研究、学説研究、質的研究等、研究手法の差異、さらには新しい研究倫理指針をふまえて精査し、二重投稿基準のすみやかな「公表」を予定している。

②投稿要領・執筆要領の改訂

電子投稿査読システムの導入に伴う要領の改訂を検討している。あわせて、①とも関わるが、博士論文執筆・審査中の論文投稿のあり方や、リジェクトされた論文の再投稿に関する規定など、これまでの審議をふまえて、要領に盛り込むことを予定している。

③電子投稿査読システムの導入に伴うマニュアルの整備

新システムの導入に向けて、システムを実際に使用し、不具合や問題点を洗い出した。これをうけ、国際文献社にシステムの手直しと簡易なマニュアルの作成を依頼した。修正後のシステムとマニュアルの検証を予定している。

3. その他（課題等）

英文誌のあり方（発行の頻度、掲載原稿の種類、査読依頼の方法など）に関する抜本的な

見直しを検討している。

7) アーカイブ化推進委員会

1. 2017年度において推進した事業

(1) 学会資料のアーカイブ化推進委員会の正式な立ち上げ

- ・委員長および委員の決定と委嘱
- ・委員会規程の作成

(2) 長期的展望に立った本委員会の取り組み内容の明確化

- ・収集すべき学会資料のランクづけの協議
- ・経年的収集方法の確立に関する検討
- ・既発行資料の収集方法の検討

(3) 機関誌『社会福祉学』等の確保

- ・文生書院（古書店）所有の『社会福祉学』（1～39号）（購入）
- ・岡本委員が保管している機関誌『社会福祉学』、目録、学会ニュース、レジュメ集等（寄贈）

2. 現在、検討している事項

(1) アーカイブ化推進委員（2018～2020年）の選定

- ・委員長・副委員長及び委員を決定する。

(2) 2018年度の取り組み（2018～2020年（第Ⅱ期）の1年目）

- ・学会機関誌および写真を分類整理し、出来るところからデジタル化の作業を進める。

(3) 学会創設70周年に向けた中長期計画

- ・2020～2022年（Ⅲ期）、2022～2024年（Ⅳ期）の具体的な活動について検討する。
（経年的収集方法の確立／収集した資料の分類整理／年史作成の段階的準備作業など）

(4) 収集した資料を公開する際の個人情報の取り扱いに関する検討

- ・広報委員会とアーカイブ資料公開の際の個人情報の取り扱いについて協議する。

8) 研究倫理に関する検討委員会

1. 2017年度において推進した事業

今年度は4回の会議（4月6日、6月19日、9月8日、1月30日—会場はいずれも東洋大学白山キャンパス）を開催した。理事会・運営委員会とも協議し、現在までに以下の作業を進めた。

1) 前年度までの議論を踏まえ、下記の文書について素案を作成した。

- ・「日本社会福祉学会研究倫理指針」の廃止と「日本社会福祉学会倫理規程」の制定
- ・研究倫理規程の趣旨を踏まえ、会員の研究活動における具体的な留意事項等を定めた「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」の制定
- ・「学会発表に関する注意事項」の作成

2) 上記の素案について、11月1日～12月5日にかけて、会員を対象にしたパブリックコメントを実施し、8名の会員から意見が寄せられた。パブリックコメントに寄せられた意見をもと

に素案を修正した。

- 3) 上記の研究倫理規程への違反行為に対する処分の内容およびフローを整理した。現行の「研究倫理上重大な違反行為が認定された会員に対する処分に関する規程」を廃止し「研究倫理規程に対する違反行為への調査および処分に関する規程」案を作成した。また、「研究倫理委員会規程」の改正案を作成した。

2. 現在、検討している事項

- 1) 2018年度総会にて、上記2)の改定案を提案する。
- 2) その際、上記3)の処分関連規程案および「倫理指針に違反する行為申立書」の改定案を紹介する。

3. その他（課題等）

2018年度総会にて改定案が承認されれば、本委員会の業務を終了する予定である。

9) 若手・女性研究者に対する支援検討委員会

1. 2017年度において推進した事業

2017年度は5名の委員に委嘱し、若手・女性研究者の対する支援検討委員会を立ち上げた。

そして、2017年10月に40歳未満の全会員を対象に、学会ホームページ上でwebによる若手・女性会員の支援のあり方に関するアンケート調査を実施した。その結果、182名（回収率18.45%）からの回答が得られた。

調査結果を分析し、「若手・女性研究者の研究・生活の現状と研究促進に向けた課題―若手・女性会員の支援のあり方に関するアンケート調査報告書―」を作成し、学会として取り組む方策についての提言を行った。それらを学会ホームページに掲載した。

2. 現在、検討している事項

2018年度は若手・女性研究者の対する支援検討委員会を常設委員会とし、以下の事項に取り組む予定である。

報告書で提言した支援方策の具体化を推進するとともに、未だ明らかにされていない40歳以上で研究経験の浅い「若手」と40歳以上の女性研究者の実態を明らかにする。そして、それらの会員に対する学会としての支援策も提言していく。

1. 2017年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

2回開催：2017年4月7日、2018年3月28日

(2) 北海道社会福祉学会第57回大会の実施

開催日時：2017年4月22日（土）参加者45名

開催場所：北星学園大学

会員の研究発表 3名 13:00～14:30

基調講演 15:00～17:00 杉山 春氏

杉山 春氏 「『家族』が行き着くとき 取材の現場から」

(3) 北海道社会福祉学会総会

2017年4月22日（土）17:10～17:30 出席者12名 於：北星学園大学

議 題：①報告事項

1) 2016年度 事業報告

2) 2016年度 収支決算報告

3) 2016年度 監査報告

②議決事項

1) 2017年度事業計画（案）

2) 2017年度予算（案・暫定）

(4) 若手研究会

第1回 2017年7月4日（水）18:30～20:30

会場：北海道大学文系共同講義棟8番教室 参加者：7名

第2回 2017年10月13日（金）18:45～20:00

会場：北海道大学W棟508 参加者：7名

第3回 2018年3月4日（日） 関東地域ブロックとの研究交流

会場：明治学院大学 参加者：6名

道内院生・若手研究者の研究交流の場を広げることを目的に関東地域ブロックの研究大会に参加し、研究交流を行った。参加者からも2名が発表を行った。また、4名の参加者に対し、研究交流の旅費助成を行った。

第4回 2018年3月10日（土）13:30～16:30

会場：北海道大学教育学部大会議室 参加者：13名（院生若手以外も含む）

山根純佳先生（実践女子大学）による「介護施設における両立支援とジェンダー」というテーマでの報告と質疑応答が行われた。

(5) 合評会

1) 2017年9月29日（金）18:00～20:00

須藤八千代訳『フェミニストソーシャルワーカー—福祉国家、グローバリゼーション、脱専門職主義—』（レナ・ドミネリ著、明石書店、2015）

須藤八千代氏による訳者解説と合評会

会場：札幌学院大学 社会連携センタービル 402 教室（4 階）

2) 2018 年 2 月 3 日（土）15：00～17：00

児玉真美著『死の自己決定権のゆくえ 尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植』（大月書店 2013）

著者児玉真美氏をお招きしての合評会

会場：北星学園大学 C 館第 5 会議室 参加者 20 名

(6) 機関誌編集委員会

編集委員会 2 回開催：2018 年 1 月 30 日 2018 年 3 月 14 日

「北海道社会福祉研究」第 38 号（電子ジャーナル）発行

2018 年 3 月発行 調査報告 2 本

2. 現在、検討している事項

- ・2018 年 11 月開催予定の学会フォーラムについて
- ・遠隔地会員の参加促進について

3. その他（課題等）

札幌圏以外の遠方の会員の学会参加の促進が課題である。

東北地域ブロック 2017 年度 事業報告書

1. 2017 年度において推進した事業

- 1) 2017 年度日本社会福祉学会東北部会研究大会（山形大会）の開催
- 2) 研究誌「東北の社会福祉研究第 14 号」の発行
- 3) 幹事会（役員会）の開催（1 回）

2. 現在、検討している事項

- 1) 2018 年度東北部会（宮城大会）の開催（2018 年 7 月予定）についての検討
- 2) 研究誌「東北の社会福祉研究第 15 号」の発行の準備

3. その他（課題等）

- 1) ホームページの開設
- 2) 研究誌掲載の基準および電子化

1. 2017年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

- 第1回(2017年6月12日)、第2回(2017年9月22日)、第3回(2017年11月13日)、第4回(2018年3月4日)の計4回開催(於: 明治学院大学白金キャンパス)
- 各部会活動の実施・運営(広報委員会、機関誌『社会福祉学評論』編集委員会、大会担当委員会、その他)

(2) 研究大会の開催

- 2017年度研究大会を2018年3月4日(日)に開催(於: 明治学院大学白金キャンパス)
 - ・大会テーマ: 働くことへの支援とその担い手の多様性を問う
 - ・記念講演: 2017年度日本社会福祉学会奨励賞受賞者1名
 - ・基調講演: 「組織論の観点から社会サービス供給組織と働くことへの支援を考えるー」
 - ・シンポジウム: 働くことへの支援とその担い手の多様性を問う
 - ・ワークショップ: 「ここが知りたい! つながりたい! 研究活動」
 - ・自由研究報告: 20演題(研究報告部門13題、萌芽的研究報告部門5題、実践報告部門2題)
(なお、研究報告部門には、北海道ブロック会員による報告2題を含む)
 - ・研究大会奨励賞: 該当者なし

(3) 機関誌『社会福祉学評論』の刊行

- ・査読・編集体制の整備を継続して実施
- ・2017年度の投稿数は15本
- ・電子ジャーナルで、2017年度に論文7本を刊行

(4) 広報活動

- ホームページ
 - ・電子ジャーナル化された機関誌『社会福祉学評論』の一般公開をメインに、研究大会抄録集、ニューズレター等をPDFで掲載。その他、関東地区で開催の公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義の情報等を紹介するページを設置
 - ・一日あたりのアクセス数は150~200件程度
- 会員情報管理システムによるメール配信サービスと連携し、情報発信を実施
 - ・メールマガジン Ver.6を2017年12月15日、同 Ver.7を2018年2月26日にそれぞれ配信
- ニューズレター
 - ・No.20を2018年1月10日に紙媒体で発行し、関東部会会員に郵送

2. 現在、検討している事項

- ・機関誌『社会福祉学評論』の査読・編集体制について継続的に検討
- ・各部会活動の連絡・調整の促進
- ・地域ブロック間の交流

1. 2017年度において推進した事業

(1) 研究例会の開催

事業計画に基づき、4月22日(土)に、名古屋市総合社会福祉会館にて2017年度研究例会を開催した。内容は以下の通り。

①大学院生・若手研究者のための勉強会(10:00~11:00)

- 1) 寺崎千華氏「児童養護施設における『生き立ちの整理』の現状と意義に関する研究—全国の児童養護施設を対象とした実態調査より」
- 2) 山本綾子氏「メンタルヘルスリテラシー教育プログラムの開発及び効果検証」
- 3) 堤友香氏「居所不明児童の市町村対応について(修士論文中間報告)」

②自由研究発表(11:10~12:50)

- 1) 大倉高志氏(東海学院大学)「親が自殺で亡くなった事実を子どもにどう伝えるか？」
- 2) 福地潮人氏(中部学院大学人間福祉学部)「社会福祉ガバナンスにおけるアソシエーションスウェーデンを事例に一」
- 3) 岩満賢次氏(愛知教育大学)「地域福祉計画における生活困窮者支援制度の位置」

③「相模原障害者殺傷事件から問い直す“社会”と“福祉”」(14:00~17:00)

- 1) 記念講演「道筋を何度も作ること——7.26殺傷事件後」
講師：立岩真也氏(立命館大学)
- 2) パネルディスカッション
 - ・木全和巳氏(日本福祉大学)「語りにくい語りの背景にあるもの」
 - ・森口弘美氏(同志社大学)「障害者の自立と支援——その実現に向けて」
 - ・辻直哉氏(愛知障害フォーラム)「今だからこそ、地域生活をあきらめない」
 - ・コーディネーター：河口尚子氏(立命館大学)

(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第9号の刊行

2018年3月に第9号を刊行する。上記の春の研究例会の内容を掲載するほか、投稿論文3本(投稿数3本)、研究ノート1本(投稿数1本)、書評2本を掲載する。日本社会福祉学会ウェブサイトの中部ブロックページに掲載する。

(3) 「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

上記の通り、4月22日(土)の研究例会に合わせて開催した。

(4) その他

部会の事業運営について協議するための常任幹事会を4回(4月、6月、9月、1月)開催した。また、部会内に、①機関誌、②院生・若手研究者のための勉強会、③研究例会について検討する委員会をそれぞれ設置し、適宜会議を行った。

2. 現在、検討している事項

2018年度の研究例会を2018年4月21日に開催する予定にしている。

3. その他（課題等）

機関誌への投稿数が減少しているため増やすための方策を検討したい。

関西地域ブロック 2017年度 事業報告書

1. 2017年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

- ・第1回 日時：2017年5月19日（金）18：00～

場所：関西大学 梅田キャンパス

- 議題
- 1.2017年度年次大会について
 - 2.若手研究者・院生情報交換会について
 - 3.ニュースレターについて
 - 4.機関誌について
 - 5.B会員の会費徴収等について
 - 6.2017年度予算（案）について
 - 7.その他

- ・第2回 日時：2018年3月

場所：関西大学 梅田キャンパス

- 議題
1. 2017年度年次大会について
 2. 2018年度 事業計画書（案）について
 3. 2018年度 予算（案）について
 4. 2017年度 事業報告（案）について
 5. 2017年度 決算報告（案）について
 6. 機関誌『関西社会福祉研究』4号について
 - 7.その他

- ・その他メーリングリストを活用して、必要に応じて情報を共有し、意見交換をした。

(2) 若手研究者・院生情報交換会

- ・第40回若手研究者・院生情報交換会（日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会）
テーマ「ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ研究を目指して～社会福祉実践の現場にかかわる研究活動～」

日 時：2017年9月1日（金）14：00～17：10

場 所：同志社大学 室町キャンパス 寒梅館 6F 大会議室

第1部（14：00～15：45）ミニ・シンポジウム

「ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ研究を目指して
～社会福祉実践の現場にかかわる研究活動～」

発題1「地域福祉の現場にかかわる研究活動」永田 祐（同志社大学）

発題2「当事者組織の現場にかかわる研究活動」森口弘美（京都府立大学）

発題 3 「社会福祉施設の現場にかかわる研究活動」 空閑浩人（同志社大学）

（趣旨説明及び全体司会：空閑浩人）

第 2 部（16：00～17：10） 質疑応答・クロストーク・意見交換

- ・第 41 回若手研究者・院生情報交換会（日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会）
テーマ「国際福祉研究に取り組む 3 つの方法論

－質問紙調査、インタビュー調査、フィールドワークを中心に－

日 時：2018 年 1 月 20 日（土） 14：30～17：40（無料）

場 所：同志社大学今出川キャンパス良心館 405

14：30～14：40 開会挨拶

14：40～15：40 基調講演 高杉公人（聖カタリナ大学准教授）

「国際福祉における比較研究の方法を考える－エビデンスの捉え方を中心に－」

15：40～15：55 休憩

15：55～17：30 報告

- ・「量的調査を用いた国際福祉比較研究の価値を語る」

孟浚鎬（同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程）

- ・「国際福祉研究におけるインタビュー調査－政策形成のダイナミズムにせまる－」

田中弘美（同志社大学研究開発推進機構特任助教）

- ・「国際福祉研究におけるフィールドワーク－言葉にあらわれない部分を捉える－」

茶谷智之（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科／日本学術振興会特別研究員）

17：30～17：40 総括

- ・第 42 回若手研究者・院生情報交換会（日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会）
テーマ「どうなる地域共生社会

～これからの社会福祉の実践・研究・担い手養成のありようを考える～

日 時：2018 年 3 月 18 日（日） 13：30～17：00

場 所：大阪府立大学

主 催：日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会、ソ教連近畿ブロック

共 催：大阪府立大学教育福祉研究センター、スクールソーシャルワーク評価支援研究所

13：00～ 受付開始

13：30～13：35 開会あいさつ（ソ教連近畿ブロック会長 山野則子教授）

13：35～15：05 基調講演：原田正樹（日本福祉大学教授）

15：05～15：15 休憩

15：15～16：15 シンポジスト報告

16：15～16：55 ディスカッション・コメンテーター、シンポジストからのコメント

【シンポジスト】

「実践の立場から」 所正文（堺市社会福祉協議会）

「研究の立場から」 松岡千代（仏教大学教授）

「養成の立場から」 山野則子（大阪府立大学教授）

【コーディネーター】 福田公教（関西大学准教授）

【コメンテーター】 原田正樹（日本福祉大学教授）
16：55～17：00 閉会あいさつ（関西社会福祉学会 理事）

（3）2017年度関西社会福祉学会年次大会（日本社会福祉学会関西地域ブロック年次大会）の開催

テーマ：「貧困をどう捉え、いかに克服していくかー子ども、受刑者、野宿者からの問いー」

場 所：龍谷大学 深草キャンパス 和顔館地下1階

日 時：2018年2月10日（土）10：00～16：30

9：30～ 受付開始

10：00～12：00 自由研究発表

12：00～12：45 休憩、昼食

12：45～13：15 日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会 総会

13：20～13：30 会長挨拶・開催校挨拶

13：30～16：30 シンポジウム

【テーマ】 貧困をどう捉え、いかに克服していくかー子ども、受刑者、野宿者からの問いー」

【シンポジスト】

- ・「子どもから見えてくる貧困と求められる関与」 山野則子（大阪府立大学教授）
- ・「受刑者から見えてくる貧困と求められる関与」 浜井浩一（龍谷大学教授）
- ・「野宿者から見えてくる貧困と求められる関与」 舟木浩（弁護士）

【コーディネーター】

加藤博史（龍谷大学短期大学部教授）

（4）機関誌の発行

機関誌『関西社会福祉研究』第4号 2018年3月発行

中国・四国地域ブロック 2017年度 事業報告書

1. 2017年度において推進した事業

（1）部会委員会の開催

中国・四国ブロックの会員より14名の役員を選任し、委員会を3回開催した。

①6月17日（土）

②12月3日（日）

③3月10日（土） *場所はいずれも岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館

（2）中国・四国地域ブロック第49回広島大会の開催

①開催日時・開催場所等：7月1日（土）広島国際大学広島キャンパス 担当校：広島国際大学

②テーマ：「社会的孤立・生活困窮者に対する社会福祉からの支援」

③内容：基調講演「社会的孤立・生活困窮者に対する社会福祉からの支援」

講師 山田壮志郎（日本福祉大学）

シンポジウム「社会的孤立・生活困窮者に対する社会福祉支援の展開」

(3) 中国・四国地域ブロック総会の開催

①開催日時場所等

7月1日(土) 12:20~13:00

広島国際大学広島キャンパス

②議案

第1号議案 2016年度事業報告および決算、監査報告

第2号議案 2017年度事業計画(案)および予算(案)

③報告

- 1 部会委員会委員について
- 2 機関誌『中国・四国社会福祉研究』について
- 3 2017年度社員総会報告
- 5 2018年度地域ブロック大会
- 6 その他

(4) 中国・四国地域ブロック特定課題研究

中山間地域の社会福祉問題を中心とした、中国・四国地域の状況に対応した研究を推進することとし、研究報告冊子『中国・四国発 地域共生社会づくりの課題と展望』の原稿募集、編集作業を行った。

(5) 中国・四国地域ブロック会報の発行

①発行回数 年2回(9月20日、2月13日)

②内容 担当理事による巻頭言、地域ブロック大会等の案内、機関誌投稿の案内

(6) 中国・四国地域ブロック機関誌の編集

『中国・四国社会福祉研究』第5号を2月に発刊した。第6号の発刊に向けて、原稿を募集し、編集作業を行った。

2. 現在、検討している事項

①会員減少への対策

②若手研究者への支援

③特定研究課題について、冊子を刊行して区切りがついたので、新規の研究課題を示して、新たな研究活動に着手したい。

3. その他(課題等)

①機関誌の投稿が、第6号では増加した。懸案であった投稿数を増やせたことは成果であるが、それゆえ、もう一つの課題であった査読体制の不十分さは、いっそう厳しくなっている。

②ブロック大会の参加者が、2017年度は開催校の尽力に加え、場所が主要駅の駅近くであったため、多くを確保できた。しかし、会員の参加が必ずしも活発ではない状況は続いている。

③メールによる配信や機関誌の電子化を進めてきたが、その結果一部の会員に情報が届いていない

恐れがある。

④ブロック委員会の出席率の向上。

九州地域ブロック 2017年度 事業報告書

1. 2017年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

運営委員会が運営委員 5 名および事務局、九州部会代表にて構成され、運営委員会を開催。

第 1 回運営委員会

開催日時：2017 年 5 月 20 日（土）11：30～12：00

開催場所：玉名市民会館 別館 第 4 会議室

議題：定期総会資料の確認等

第 2 回運営委員会

開催日時：2017 年 12 月 26 日（火）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：予算書・事業計画書等の検討

第 3 回運営委員会

開催日時：2018 年 2 月 27 日（火）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：次期運営委員選挙実施について

第 4 回運営委員会

開催日時：2018 年 3 月 7 日（水）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：次期九州ブロック運営体制の検討

第 5 回運営委員会

開催日時：2018 年 3 月 13 日（火）

開催場所：メールによる会議を実施

議題：次期運営委員選挙実施スケジュールについて

※別途、事務局会議を適宜実施

(2) 研究大会（第 58 回）の開催

- ・開催校：九州看護福祉大学（熊本県玉名市）
- ・大会テーマ：「多様性の日常化と社会福祉」
- ・開催日：2017 年 5 月 20 日（土）～21 日（日）
- ・基調講演：テーマ「これからの福祉を考える～ソーシャルアクションの時代に～」
講 師 湯浅 誠 氏（法政大学現代福祉学部 教授）
- ・シンポジウム：「多様性の日常化と社会福祉」

シンポジスト

今坂 洋志 氏（熊本県性教育研究会会長・ともに拓く LGBTIQ の会くまもと代表）

木崎 美千代 氏（特定非営利活動法人自立生活センターヒューマンネットワーク熊本常任
委員・権利擁護責任者）

甲斐 静江 氏 (発達障がい者・家族の会「プリズム」代表)

指定発言

豊田 保 氏 (九州看護福祉大学)

コーディネーター

山本 孝司 氏 (九州看護福祉大学)

- ・参加者：89名 (2日間合計)

(3) 2017年度定期総会の開催

- ・開催日：2017年5月21日 (日)
- ・会場：九州看護福祉大学 (熊本県玉名市)
- ・議事内容

2016年度事業報告

2016年度収支決算および会計監査報告

「九州社会福祉学」機関誌編集規程の改定

2017年度事業計画

2017年度予算

(4) 第14回 日本社会福祉学会フォーラムの開催 (日本社会福祉学会と共同開催)

- ・開催日：2017年12月9日 (土)
- ・会場：アクロス福岡7階 大会議室
- ・基調講演：テーマ「地域共生社会の実現に向けて社会福祉法人に期待されること」
講師 渋谷 篤男 氏 (全国社会福祉協議会)
- ・シンポジウム：「高齢者福祉サービスの質の向上と福祉経営」

<シンポジスト>

倉田 康路 氏 (西南学院大学)

稲吉 江美 氏 (福岡県社会福祉士会)

平田 直之 氏 (社会福祉法人 慈愛会)

鬼崎 信好 氏 (久留米大学)

<コーディネーター>

本郷 秀和 氏 (福岡県立大学)

<コメンテーター>

渋谷 篤男 氏 (全国社会福祉協議会)

- ・参加者 119名

(5) 機関誌「九州社会福祉学第14号」の発行

- ・投稿論文数：論文8本、研究ノート2本 計10本
- ・論文掲載数：論文6本、調査報告1本、研究ノート2本 計9本
- ・編集作業を次の手続きにより実施
 - ① 査読者 (各論文2名) による査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼
 - ② 修正された論文について編集委員会にて掲載の可否、掲載区分を決定。

投稿者に結果通知。

- ③ 投稿者へ論文掲載料振込依頼文書発送
- ④ 論文の校正
- ⑤ 2018年3月に会員あて発送

(6) 次期運営委員選挙の実施

- ・次期運営委員選挙を次の手続きにより実施
 - ① 選挙管理委員選出
 - ② 会員へ選挙に関する文書発送
 - ③ 選挙管理委員が投票用紙を受け取り (2018年3月30日消印有効)
 - ④ 開票 (4月10日に開票し、5名の運営委員を選出)
 - ⑤ 運営委員会への報告

2. 現在、検討している事項

- ・2018年6月開催予定の第59回研究大会 (沖縄国際大学) について
- ・2018年度の九州地域ブロックの運営体制について

一般社団法人日本社会福祉学会 第5期(通算第26期) 役員担当業務一覧

別表-①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
岩崎 晋也	会長	運営委員会	社会政策関連学会協議会 日本ソーシャルワーク教育学校連盟(理事) ソーシャルケアサービス従事者研究協議会(副代表)
黒木 保博	副会長 国外渉外担当	運営委員会 国際学術交流促進委員会(委員長)	日本社会福祉系学会連合(会長) 社会学系コンソーシアム ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
金子 光一	総務担当	運営委員会(事務局長) アーカイブ化推進委員会(委員長)	事務局連絡会担当 社会政策関連学会協議会
湯澤 直美	財務担当	運営委員会 全国大会運営委員会 地域ブロック担当者委員会(委員長)	日本社会福祉系学会連合(事務局長) 事務局連絡会担当
原田 正樹	研究担当	運営委員会 研究委員会(委員長) 全国大会運営委員会(委員長) 大会のあり方検討委員会(委員長)	秋大会担当
岡部 卓	研究担当	研究委員会 研究倫理委員会(委員長)	
大島 巖	研究担当	研究委員会 学会賞審査委員会	
倉田 康路	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 大会のあり方検討委員会	フォーラム担当
山野 則子	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 大会のあり方検討委員会	春大会担当
小原 眞知子	渉外担当(広報)	広報委員会(委員長)	
坪 洋一	機関誌担当	運営委員会 機関誌編集委員会(委員長)	
今井 小の実	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長)	
保正 友子	渉外担当(国内)	若手・女性研究者に対する支援検討 委員会(委員長)	社会学系コンソーシアム 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS)
松本 伊智朗	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当	
三浦 剛	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当	
久保 美紀	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当 研究倫理委員会	
山田 壮志郎	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当 研究倫理に関する検討委員会(委員長)	
岡田 忠克	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
杉山 博昭	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当 研究倫理委員会	
本郷 秀和	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当	
小林 良二	監事		
市川 一宏	監事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

別表-②

委員会名	第5期委員会委員 (◎：委員長／○：副委員長)			
機関誌編集委員会	◎坪 洋一 池本 美和子 加藤 博史 小林 理 室田 信一	○今井 小の実 石川 時子 川島 ゆり子 柴田 謙治 山井 理恵	沖倉 智美 倉持 史朗 三島 亜紀子 山本 真実	奥西 栄介 小泉 広子 村田 文世
学会賞審査委員会	◎古川 孝順 大島 巖 三本松 政之	太田 貞司 白澤 政和	大友 昌子	黒田 研二
広報委員会	◎小原 眞知子 飯村 史恵 吉田 光爾	小櫃 俊介	高山 恵理子	陳 麗婷
研究委員会	◎原田 正樹 倉田 康路	山野 則子	大島 巖	岡部 卓
国際学術交流促進委員会	◎黒木 保博 岡田 忠克 蘇 珍伊	金 圓景 沈 潔	阪口 春彦 包 敏	志村 健一
研究倫理委員会	◎岡部 卓 久保 美紀	児島 亜紀子	杉山 博昭	平野 方紹
全国大会運営委員会	◎原田 正樹 倉田 康路 和気 純子 柴田 学	山野 則子 室田 信一 大谷 京子	金子 光一 柴田 謙治 木下 武徳	岡部 卓 窄山 太 山本 美香
地域ブロック担当者委員会	◎湯澤 直美 松本 伊智朗 岡田 忠克	三浦 剛 杉山 博昭	久保 美紀 本郷 秀和	山田 壮志郎
大会のあり方検討委員会	◎原田 正樹 倉田 康路 山本 美香	山野 則子	大谷 京子	木下 武徳
研究倫理に関する検討委員会	◎山田 壮志郎 岩永 理恵	高山 直樹	横山 由香里	
アーカイブ化推進委員会	◎金子 光一 岡本 民夫	元村 智明	蜂谷 俊隆	
若手・女性研究者に対する 支援検討委員会	◎保正 友子 越智 あゆみ	千葉 伸彦	中里 哲也	永野 咲